

## 製品名: カドヘリン 23 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab07832

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

### 抗原情報

遺伝子名	CDH23
別名	CDH23; KIAA1774; KIAA1812; Cadherin-23; Otocadherin
遺伝子 ID	64072.0
SwissProt ID	Q9H251
免疫原	抗血清はヒト CDH23 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

### 背景

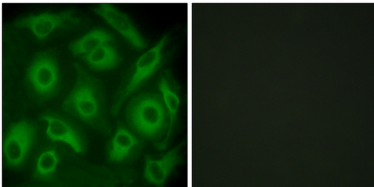
この遺伝子はカドヘリンスーパーファミリーに属し、カルシウム依存性細胞間接着糖タンパク質をコードする遺伝子群です。コードされているタンパク質は、不動毛の組織化と毛束の形成に関与していると考えられています。この遺伝子は、ヒト難聴遺伝子座

DFNB12 および USH1D を含む領域に位置しています。アッシャー症候群 1D および非症候性常染色体劣性難聴 DFNB12 は、このカドヘリン様遺伝子の対立遺伝子変異によって引き起こされます。この遺伝子の発現亢進は、乳がんとも関連している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライスバリエントが報告されています。[RefSeq 提供、2013 年 5 月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在するようです。疾患：CDH23 の欠陥は、アッシャー症候群 1D/F 型 (USH1DF) [MIM:601067] の原因です。USH1DF 患者は、CDH23 および PCDH15 の変異についてヘテロ接合性であり、二遺伝子遺伝パターンを示しています。疾患：CDH23 の欠陥は、非症候群性感音難聴常染色体劣性 12 型 (DFNB12) [MIM:601386] の原因です。DFNB12 は感音難聴の一種です。感音難聴は、内耳の神経受容体、脳への神経経路、または音情報を受信する脳の領域の損傷によって発生します。疾患：CDH23 の欠陥は、アッシャー症候群 1D 型 (USH1D) [MIM:601067] の原因です。USH は、網膜色素変性症と感音難聴の合併を特徴とする遺伝的に異質な疾患です。発症年齢と聴覚および前庭機能の違いにより、アッシャー症候群 1 型 (USH1)、アッシャー症候群 2 型 (USH2)、およびアッシャー症候群 3 型 (USH3) が区別されます。USH1 は、重度の先天性感音難聴、前庭機能の欠如、そして思春期前に発症し失明に至る進行性網膜色素変性症を特徴とします。機能：カドヘリンはカルシウム依存性細胞接着タンパク質です。細胞同士を接着する際に、カドヘリンは互いに同種親和性に相互作用することを優先します。カドヘリン 23 は、後期胚発生期から出生後早期にかけて、蝸牛および前庭における有毛細胞の不動毛束の適切な組織化を確立および / または維持するために必要です。オンライン情報：Retina International's Scientific Newsletter, 類似性：27 のカドヘリンドメインを含みます。組織特異性：網膜で特に強い発現を示します。蝸牛にも存在します。、

## 研究分野

アドヘレンス・ジャンクション

## 画像データ



CDH23 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。